



巻頭特集

地域の交通安全意識を高めて 上野自動車学校

1962年の設立以来、5万人以上の卒業生を交通社会へと送り出してきた上野自動車学校。外国人の教習生が多いという地域の特性に合わせた学校づくりに力を入れるほか、地域企業や学校への講習を通して、地域の交通安全力向上に力を注いでいる。

土地柄を踏まえた カリキュラムを強化

左右を確認して、ゆっくりと走り出す教習車。教習所内のコースには、信号機や横断歩道、線路などが設置され、本物さながらの街が再現されている。コースを見渡していると、急発進し、段差に乗り上げる車があった。「あれは、アクセルとブレーキを踏み間違えた時の対処法などを体験する教習です」と、教えてくれたのは、上野自動車学校で教習指導員を務める岡嶋達陽さん。教習では、縦列駐車や坂道発進など、さまざまな状況が想定されている。

新規免許取得者だけでなく、ペーパードライバーやトラック運転手を対象とした講習も実施。燃費計を用いるエコドライブ講習では、準中型車両を使用して、環境に配慮したアクセル操作や車両点検方法などを学ぶ。CO2の排出を減らし、経費削減



上野自動車学校の岡嶋達陽さん(右)と、藤井研太さん

減にもつながるエコドライブ。ふんわりアクセルや早めのアクセルオフは、事故防止にも効果をもたらす。

伊賀市は、外国人住民数の割合が県内で2番目に高く(※)、市人口全体の5・78%を占める。上野自動車学校では、外国人の入校生が増加したことをきっかけに、4年前から案内カウンターに通訳を配置。国籍・地域別ではブラジルが最も多く、ポルトガル語の翻訳を積極的に取り入れている。「国が変われば交通ルールも異なります。国内での習慣が抜けない方も多いので、日本の交通ルールを細かく指導しています」。

シミュレーターを活用し 交通ルールを学ぶ場を提供

近年は、地域企業や学校、幼稚園・保育園などの保育施設を対象とした交通安全講習にも注力。昨年は40回の講習に2127人が参加した。交通安全講習と一口で言っても、内



上野自動車学校ではAT車・MT車計31台、大型二輪3台、普通二輪6台なども所有する。AT車はピンク色、MT車は水色



運転席にはタブレットを搭載。車速などの走行時情報やブレーキ操作状態の確認ができるほか、イラストを用いた教本は外国人生徒との復習にも役立つ



実際にペダルをこぎながら操作する「自転車シミュレーター」。正面のモニターの左右には、左右確認ボックスが備えられ、左右から車や歩行者が来ていないか、など確認の練習ができる



走行体験やクイズを通して、交通ルールを学ぶ。踏み切りや横断歩道での通行や、走行中の歩道に障害物がある場合など、実際に起こりうる危険な場面が登場する



約1時間の講習では、普段行き来する通学路の危険箇所も紹介。「今日学んだことを、忘れないようにしたい」と児童たちは感想を口にした

容はさまざま。免許取得からまだ日が浅い新人社員研修をはじめ、福祉車両や貨物車両運転者向けなど、企業や学校の要望を踏まえて、プログラムを提供している。

「地域の交通安全教育に役立ちたい」と、5年前から自転車シミュレーターを導入。「シミュレーターを用いた講習は、ゲーム感覚で交通ルールを学べます。子どもたちにも好評で、今では毎年オファーしてくださる学校もあります」と岡嶋さんは微笑む。ペダルやブレーキがついた自転車とモニターを搭載したシミュレーターには、前方・左右確認モニターや、後方確認のための「リアビューモニター」を備える。「商店街へ行く」「塾へ行く」など、さまざまなシチュエーションが用意されているのも特徴で、自転車を操作しながら、交通ルールや危険予測能力を身につけていく。

子。「出発前には、周りの安全を確認しようね」と、スタッフの声に促され、左右と後方のモニターを確認し、自転車をこぎ始めた。シミュレーターの時間設定は、夜。視界が悪く歩行者が判別しづらいため、走行にはより一層の注意を払わねばならない。操作を見守る児童からは、「暗くて、前が見えにくいね」などの声が飛ぶ。「しっかりとブレーキを使って、スピードを出しすぎないように。道路では左側を走りましょう」とアドバイスを受けた児童。歩行者と衝突した場合は自転車加害者となるケースが高く、ルールを守って走行することが大切だ。

慣れや過信は禁物！ 大切なのは、安全への心かけ

判断の誤りや操作ミスなどのヒューマンエラーのほか、天候や道路状況など交通事故の要因はさまざまだが、焦りや緊張など心的要因も大きく関わっているという。岡嶋さんは、交通心理士補の資格を昨年取得。運転時における人間の行動特性

を研究し、指導に生かしている。「教習中に運転操作を誤った場合、『なぜそのようなミスが起こってしまったか』と心理的要因にも着目。『焦らなくても大丈夫』と声をかけるなど、教習生一人ひとりの性格に寄り添った指導ができるようにもなりました」

ペダルの踏み間違いなどの事故が増加する近年、ドライバーの操作をサポートする先進技術の開発が目覚ましいが、技術に頼りすぎるとはいけない。「運転への慣れが過信に繋がり、事故を引き起こすケースもあります。基本に立ち返り、ご自身の運転を見直してください。大切なのは、運転者の心かけ」と岡嶋さんは呼びかけた。



伊賀市役所本庁舎横の交差点で、県初となる信号のない環状交差点(ラウンドアバウト)の試行運用を6月1日まで実施。通行ルールをポルトガル語で表記し、校内に掲示した

一人ひとりの心かけで交通事故を減らそう!

日常生活で気をつけるべき、交通ルールを岡嶋さんに聞いた。

★住宅街での注意点

「停止線がある道路は、事故が発生する可能性があるなど注意が必要なところ。必ずしっかり止まって左右を確認してから、ゆっくりと走りましょう」

★夏休みや長期休暇の注意点

「学校が夏休みに入ると、生活環境が大きく変化します。住宅街や公園付近を走行中に子どもが飛び出してくることもありますので、注意しましょう。また休暇中には、長時間運転することもあるでしょう。適度に休息を取りながら、安全運転を心がけましょう」

★ながら運転は絶対にやめましょう

「スマートフォンやカーナビを注視していたことによる事故が後を絶ちません。時速40kmで走る車は1秒間に約10m進みます。画面に意識が集中している間に、歩行者が飛び出してくるなど進行方向の状況が変わるかもしれませんので、絶対にやめましょう」



1秒間に約10m
(時速40kmで走行の場合)



※ 外国人住民国籍・地域別人口調査(平成30年12月31日現在)

伊賀市街地をモチーフにした車体が目を引く